バスマップハンドブックの制作

バスマップハンドブック制作委員会

バスマップ・公共交通マップを制作しようとする方々へ
制作手順、情報収集、描画、配布など留意するべき事項をまとめた

バスマップハンドブックは、バスマップに関する理念や情報について図表を用いて体系的に整理した、A4版32ページ（表紙含む）の冊子。バスマップを知らない人でも一読すればバスマップとは何かを概観でき、バスマップを作ろうとする人が必要な事項を調べやすい、ハンドブック（便覧）。バスマップや公共交通マップを制作しようとする自治体などに向けて、制作手順・情報収集・描画・配布など留意すべき事項をまとめた。制作に携わる交通事業者、制作受託者や市民団体などが参照しても役に立つ情報も掲載している。

1部1000円（送料別）で頒布。

目次

バスマップハンドブック制作の経緯
第1章　バスマップとはどんなものか
1.1 バスマップとは何か？
1.2 バスマップの目的・役割
1.3 日本のバスマップ制作史
1.4 全国のバスマップ作成状況
1.5 海外のバスマップの事例と特徴
1.6 バスマップ関連文献
第2章　バスの情報とバスマップ
2.1 経路検索とバスマップ
2.2 バスマップとバス案内の連携
第3章　バスマップの企画と制作
3.1 バスマップの企画と制作スケジュール
3.2 バス情報の収集
3.3 バスマップの媒体
3.4 バスマップの費用
3.5 バスマップの更新・継続
3.6 バスマップと権利関係
第4章　バスマップのコンテンツ・デザインの理論と技術
4.1 バスマップに記載する情報
4.2 バスマップの対象範囲
4.3 運行経路の表現
4.4 バスマップ作成手法とソフトウェア
第5章　バスマップの普及と活用
5.1 バスマップの配布・広報
5.2 バスマップと他の情報の組み合わせ
5.3 人々とバスマップの関わり
第6章　おわりに～バスマップの未来

2.1 経路検索とバスマップ　掲載図表

凡例：〇利点、●欠点

乗換案内（経路検索）システム	バスマップ
出発地・目的地・時刻等の条件を指定し、条件を満たす経路を検索	あらゆる交通機関・路線を１枚の図面で表現
●条件を絞り込まない場合の一覧性が乏しく、複数地点を巡る場合や、路線が多いところ、検索結果の近隣の路線網を探し出す場合には、使いにくいシステムがある	〇全体を俯瞰してとらえることができる 〇地域間の路線の繋がりを把握できる 〇路線網全体を把握する必要がある交通政策担当者や観光案内担当者が必要な情報を得やすい
〇出発地・目的地がはっきり決まった２地点間の移動では、難しいことを考えずに使える。 （システムによっては住所、施設名、店舗名で検索できるが、正確な駅名やバス停の名称を入力しないと使えないものも存在する。） 〇土地勘がない場合、GPS 情報を使いピンポイントで情報を探せる	●地図を読み解くのが不得意な人や、路線やバス停が多数ある場合に、目的の路線やバス停を探し出すのが難しいことがある。 特に土地勘がない場合には難解である。
〇路線の検索とともに、時刻・運賃も把握ができる	●時刻表・運賃表を別途参照する手間がある。（バスマップに運行頻度が表示されていれば、利用しやすさの目安にはなる）
●出発地・目的地が定まっていない場合には、検索ができない	〇出発地・目的地を決める手掛かりになる

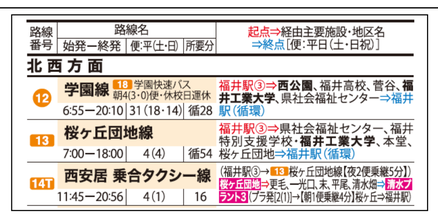
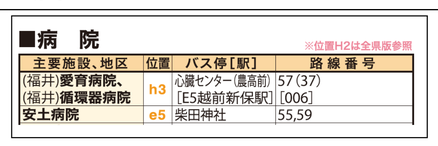
3.3 バスマップの媒体　掲載図表

凡例：〇利点、●欠点

	デジタル版（スマホ、パソコン、タブレット等）	紙印刷物（看板表示等）
掲載範囲	〇柔軟に対応可能 〇一画面に入らない広範囲を動かして表示可能（必要に応じた見たい範囲を見やすい）	●紙や看板の大きさの制約あり ●図郭の切分けは固定
デバイスの特徴	●表示にはパソコン、タブレット、スマートフォン等の端末が必要、操作に習熟を要す（デジタル・ディバイド） ●デバイスの起動、データの読込・表示に時間がかかる ●電源の確保（バッテリーの残量）が必要 ●広い範囲を同時に見るには大画面のデバイスが必要であり、小さく収納して持ち運ぶのが難しい ●画面と周辺の明るさ等の環境によっては見にくい 〇記入したメモを書き換え可能	〇印刷物は操作等をせずに読みやすい 〇広い範囲を広げて見たり、折りたたんで収納可能 ●周辺が暗い夜は見にくい ●文字が小さいと読めない 〇メモの記入が容易
内容の制約	〇必要に応じて表示内容を切り替るなど、関連する情報を連携して表示しやすい 〇必要に応じ他の地図等と柔軟に重合せて表示可能	●内容の切り替え困難
流通コスト	〇WEB サイト公開の場合、既設の WEB サイトを使えれば追加的なコストはほぼ無い 〇インターネットに接続できる場所であれば、いつでもどこでも容易に入手可能 →外出前でも外出先でも、必要なものをすぐに入手でき、事前の計画や急な計画変更に対応しやすい 〇デジタルサイネージの場合、インターネットに接続できれば容易に更新可能 ●デジタルサイネージの設置・維持は高コスト ●デバイスを持たない人には、電子ペーパー等の配布は高コストで困難 〇窓口等で必要に応じて印刷可能 〇PDF 等のファイルの修正が困難でも、訂正ページ対応容易	●配布物の場合、配布場所への輸送、品切れしない在庫管理、旧版回収等にコストがかかる ●配布物の場合、案内所等の限られた場所でしか入手できない ●掲載範囲から離れた場所へは流通コストが特に高い（個別取り寄せに郵送や宅配で対応する必要があり、時間もかかる） →旅行前の計画や引っ越し先の検討には使いにくい ●看板は更新に時間と費用がかかる。そのため、シールで修正対応するなどの対応が必要。更新する予算がないと旧版がそのまま放置されてしまうケースがある。
広報	●興味ある人以外へ届けるのが難しい	〇モビリティ・マネジメント等、新規顧客に届けやすい 〇専用ラックに各種類を並べて配布すると訴求力がある

4.1 バスマップに記載する情報　掲載図表

次のような情報をバスマップに記載することが考えられる。　凡例：◎必須　〇望ましい

項目	目的・内容
◎タイトル	・バスマップの名称、地域名
◎発行時点	・記載している情報の時点の年月日
◎路線・系統一覧	・事業者名、路線名、系統番号 ・起点、経由地、終点 ・運行頻度（運行回数または間隔） ・運行日（土休日運休や曜日別運行等）  路線番号 ｜ 路線名（始発ー終発 ｜ 便:平(土・日) ｜ 所要分） ｜ 起点⇒経由主要施設・地区名⇒終点［便:平日(土・日祝）］ 北西方面 12 学園線 SL 学園快速バス 朝4(3・0)便・休校日運休 6:55ー20:10 ｜ 31(18・14) ｜ 循28 ｜ 福井駅②⇒西公園、福井高校、菅谷、福井工業大学、県社会福祉センター⇒福井駅（循環） 13 桜ヶ丘団地線 7:00ー18:00 ｜ 4(4) ｜ 循54 ｜ 福井駅③⇒県社会福祉センター、福井特別支援学校・福井工業大学、本堂、桜ヶ丘団地⇒福井駅（循環） 14T 西安居 乗合タクシー線 11:45ー20:56 ｜ 4(1) ｜ 16 ｜ （福井駅③→14桜ヶ丘団地線［改2便乗継5分］）桜ヶ丘団地→更毛、一光口、末、平尾、清水焼⇒末ノ ラ ノ 末[ブラ発2(1)]→（駅1便乗継4分］桜ヶ丘⇒福井駅）
〇乗り場案内図	・複数乗り場があるバスターミナルの形状と乗り場番号、発着する路線名など
〇乗り方の案内	＜下記参照＞
〇運賃体系	・均一運賃か否か、均一運賃の額 ・使えるキャッシュレス決済（交通系 IC カード等） ・定期券、回数券、一日乗車券等の金額や売り場等
施設一覧	・施設の名称、バスマップ上での位置 最寄りバス停の名称、通る路線  ■病　院　※位置H2は全県版参照 主要施設、地区 ｜ 位置 ｜ バス停［駅］ ｜ 路線番号 (福井)愛育病院、(福井)循環器病院 ｜ h3 ｜ 心臓センター(農高前)［E5越前新保駅］ ｜ 57(37)［006］ 安土病院 ｜ e5 ｜ 柴田神社 ｜ 55,59
他の情報源	・運行事業者の電話番号等の問い合わせ先、WEB サイトの QR コード等
◎問い合わせ先	・発行者・運行事業者の名称、連絡先
その他	・ISBN コード、バーコード（書店で流通させる場合）
その他	・広告（広告収入を得る）
その他	・公共交通利用啓発

バスマップハンドブック制作委員会
発行・事務局
特定非営利活動法人 公共の交通ラクダ（RACDA）
岡 將男 okj165@poppy.ocn.ne.jp
〒700-0803 岡山市北区丸の内1-1-15禁酒会館3Ｆ